

2019年1月31日

平成30年度 卒業論文

高等学校の校歌と応援歌の表現特性

国語表現ゼミナール

指導教官 野浪正隆先生

学校教員養成課程 国語教育専攻 小学校コース

152125 西川雄大

400字詰め原稿用紙換算 200枚

目次

序章 はじめに

第一章	研究動機、目的	P 3
第一節	研究対象	
第一項	校歌、応援歌について	P 4
第二項	対象曲	P 5
第二節	研究方法	P 9
第三節	予想される結論	P 1 1

第二章 曲の分析結果・考察

第一節	校歌について	
第一項	分析項目について	P 1 2
第二項	校歌の構成	P 2 7
第二節	応援歌について	
第一項	分析項目について	P 3 2
第二項	応援歌の構成	P 4 2
第三節	校歌、応援歌の比較	P 4 6

第三章 結論と今後の課題

第一節	結論	P 4 8
第二節	今後の課題	P 4 9

終章	おわりに	P 5 0
----	------	-------

序章

第一節 研究動機、目的

2018年、夏。甲子園のグラウンド。100回記念となる今年度の全国高校野球選手権大会において、最後に校歌を高らかに歌い上げたのは大阪府私立大阪桐蔭高等学校である。

—研磨のおたけび 来たり聴け—

最後の1小節を歌い終わり、自陣の応援アルプスに走りゆく高校球児たちには、止め処ない拍手喝采が送られたのであった。

その様子を自宅のテレビで見っていた私は、高校野球の爽やかな1場面に感動を覚えるとともに、校歌の若さや力強さを表した歌詞に興味を持ち、調べてみたいと思った。それと同時に、ほとんどの学校に校歌とともに存在する応援歌についても、校歌とどのような点で関連しているのか、全く別物なのかを調査したいと思い、同様に調べてみることにした。

第一章 研究概要

第一節 研究対象

第一項 校歌、応援歌について

校歌、応援歌についての研究を始めるにあたって、校歌と応援歌は今まで小学校、中学校、高校と歌い慣れ親しんできたものではあるがその意味を改めて調べてみることにした。

【校歌】

学校で、建学の理想をうたい、校風を発揚するために制定した歌。

「広辞苑 第六版」 2008年1月11日 岩波書店

【応援歌】

競技などで、味方・ひいきのチームや選手を応援するための歌。

「広辞苑 第六版」 2008年1月11日 岩波書店

この説明を読むと、校歌は学校が建学されたときに生徒のあるべき姿と、その学校独特の校風を表現したものである。

それに対して応援歌は、今回は高等学校に絞って調査することにしたが、学校以外のプロスポーツのチームでも歌われるものである。それゆえ、辞書としての意味でも「競技などで」、「チームや選手を」とスポーツや運動行事に偏っているような印象を受ける。実際に私の小学校から高校までの学校生活でどんなときに校歌を歌ったか、応援歌を歌ったかを思い返すと、校歌は全校集会などの学校行事で主に歌われる。応援歌は運動会や部活の壮行式のように運動に関する場面で主に歌われる。

研究を進めるにあたって、校歌と応援歌の歌われる場面の違いや歌詞の中で共通している点を比較しながら考えていきたい。

第二項 対象曲について

全国の校歌、応援歌が共に存在する高校 100 校の校歌、応援歌をランダムに抽出した。その際に公立、私立は問わないものとする。また、東日本や西日本などの地方の偏りがないうように選出した。高校によっては応援歌が複数存在するが、今回は第一応援歌に設定されている一曲のみを分析対象とした。(応援歌にはタイトルがあるものとそうでないものがある)

以下、今回の分析対象の学校を表記する。

学校名
1. 埼玉県花咲徳栄高等学校
2. 新潟県立柏崎高等学校
3. 兵庫県立津名高等学校
4. 石川県金沢学院高等学校
5. 愛媛県立八幡浜高等学校
6. 鳥取県鳥取城北高等学校
7. 長崎県立佐世保南高等学校
8. 大阪府立岸和田高等学校
9. 大分県立高田高等学校
10. 静岡県立藤枝東高等学校
11. 愛知工業大学名電高等学校
12. 愛知県星城高等学校
13. 宮城県東北学院高等学校
14. 青森県立青森高等学校
15. 岩手県立盛岡第四高等学校
16. 愛知県立瀬戸高等学校
17. 高知県土佐高等学校
18. 静岡県立藤枝東高等学校
19. 山形県立鶴岡中央高等学校
20. 福岡県立東筑高等学校
21. 福岡県立香椎工業高等学校
22. 慶応義塾高等学校
23. 茨城県立那珂高等学校
24. 茨城県茨城高等学校
25. 岡山県立岡山東商業高等学校
26. 新潟県立新発田高等学校

27. 福岡県立ありあけ新世高等学校
28. 新潟県立長岡工業高等学校
29. 岡山県立玉島商業高等学校
30. 福岡県立小倉東高等学校
31. 愛知県立岡崎北高等学校
32. 愛知県立国府高等学校
33. 静岡県立磐田南高等学校
34. 福岡県立小倉工業高等学校
35. 静岡県飛龍高等学校
36. 千葉県日本大学習志野高等学校
37. 福岡県立修猷館高等学校
38. 大阪府関西創価高等学校
39. 広島県修道高等学校
40. 東京都明治大学附属中野高等学校
41. 山口県早鞆高等学校
42. 富山県立高岡西高等学校
43. 埼玉県立川口工業高等学校
44. 長野県上田高等学校
45. 岡山商科大学附属高等学校
46. 広島県福山誠之館高等学校
47. 埼玉県立本庄高等学校
48. 福岡県立戸畑高等学校
49. 静岡県立清水東高等学校
50. 広島県立呉宮原高等学校
51. 福岡県九州産業大学附属九州高等学校
52. 山形県立酒田東高等学校
53. 東京都日本大学第三高等学校
54. 福岡県立香椎高等学校
55. 山形県山形市立商業高等学校
56. 愛知県立成章高等学校
57. 佐賀県立伊万里高等学校
58. 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
59. 長野県屋代高等学校
60. 大阪府三国丘高等学校
61. 茨城県常総学院高等学校

62. 佐賀県立鹿島高等学校
63. 山口県立宇部商業高等学校
64. 和歌山県立熊野高等学校
65. 山形県山本学園高等学校
66. 静岡県立掛川西高等学校
67. 新潟県立新潟高等学校
68. 北海道札幌第一高等学校
69. 群馬県立高崎高等学校
70. 北海道函館西高等学校
71. 埼玉県春日部高等学校
72. 神奈川県藤峰学園藤沢高等学校
73. 京都府立命館高等学校
74. 群馬県立前橋高等学校
75. 宮城県仙台第二高等学校
76. 愛知県立渥美農業高等学校
77. 北海道芽室高等学校
78. 新潟県佐渡高等学校
79. 長野県諏訪清陵高等学校
80. 香川県立丸亀高等学校
81. 秋田県立本荘高等学校
82. 愛媛県立小松高等学校
83. 静岡県立島田高等学校
84. 岩手県立遠野高等学校
85. 鹿児島県立鹿児島南高等学校
86. 北海道函館商業高等学校
87. 熊本県立熊本北高等学校
88. 秋田県立大館鳳鳴高等学校
89. 岩手県立水沢高等学校
90. 鹿児島県立加治木高等学校
91. 栃木県立佐野高等学校
92. 宮崎県立延岡高等学校
93. 山口県誠英高等学校
94. 福岡県立育徳館高等学校
95. 愛知県立瑞陵高等学校
96. 長野県中野立志館高校

97. 福岡県立八幡工業高等学校
98. 山形県立米沢興譲館高等学校
99. 徳島県立城ノ内高等学校
100. 栃木県立益子芳星高等学校

第二節 研究方法

今回、校歌、応援歌の表現特性を明らかにするにあたって、校歌応援歌ともに以下のよう
な同じ分析項目を立てて分析を進めることにした。

1、 風物

研究対象の歌詞の中の風物を抽出する。

2、 学校(校舎)の表現

歌詞の中で学校(校舎)がどのように表現されているかを調べる。

3、 学業に関する表現

歌詞の中に学業に関する単語や表現があるか。

4、 運動、スポーツに関する表現

歌詞の中に運動やスポーツを表す表現があるか。

5、 一人称

歌詞の中での一人称(主に学生)を調べる。

6、 学生の行動

歌詞の中での学生の行動を抽出する。

7、 学校生活の目標

歌詞の中の学校生活における目標の有無を調べる。

例(徳下に学ばん 友と友)

8、 学校名

歌詞の中の学校名の有無を調べる。

以下の項目を、校歌、応援歌とそれぞれ下記のように Excel で表にまとめた。

学校名	校歌	タイトル	作詞	作曲	風物	校舎の表現	一人称	生徒の行動	学校生活の目標	学校名
埼玉県花咲徳栄高等学校	風にさそわれ 集いし我ら		佐藤照子	金田あきお	風、太陽、 富士山、水	学び舎	我ら	学ぶ、悟る、	○	○
新潟県立柏崎高等学校	一 米峰突兀		中西利徳	村山沼一郎	雲、天、日 本海、山、	我が校	なし	勇む、守る、 謳う	x	x
兵庫県立津名高等学校	1. 母なる海 の かがよい		竹中郁	大澤寿人	海、梢、雲、	母校	われら	目ざむ、伸び	○	○
石川県金沢学院高等学校	青空に 高く そびえる 学		村澤良一	池辺晋一郎	青空、海山、	学び舎	我ら	羽ばたく、飛 び出す、踏	○	○
愛媛県立八幡浜高等学校	一、出石嶺 遠く 空		井上明	川崎音一	空、茜、岬、	なし	我が	学ぶ、磨く、	○	x
鳥取県鳥取城北高等学校	1. 常盤の緑 陽に映え		松本謙葉子	小幡義之	緑、陽、空、	母校	我ら、若人	仰ぐ、学ぶ、	○	○
長崎県立佐世保南高等学校	1. 烏帽子が岳 の 峰遠く		不明	不明	岳、峰、青雲	なし	若人	慕う、織る、	○	○
大阪府立岸和田高等学校	1、聞け黎明 の鐘の音は		有岡恭介	保田正	猪伏が原、	暮学び舎	われら、若人	研ぐ、抱く、進	○	x
大分県立高田高等学校	仰げよ朝を 両子山二つ		不明	不明	両子山、青 雲、若草、	なし	我等、若人	仰ぐ、翔ぶ、 集う、結ぶ、	○	○

この表を用いて対象全曲における各項目の割合や、その項目が含まれた曲数を出し、それを参考に考察を行う。

また、校歌、応援歌によって番数が違うことから、番数によって歌詞がどのように違って、どのような流れで進んでいくのかを(1)場所型、(2)時間型、(3)場所、時間型に分類した。

場所型・・・一番が海、二番が森、三番が川のように場所ごとに歌が進んでゆく。

時間型・・・一番が朝、二番が昼、三番が夜のように時間の経過に伴って歌が進んでゆく。

場所、時間型・・・場所と時間が同時に変化しながら進んでいく

第3節 予想される結論

校歌、応援歌ともに歌詞のメインになるのは生徒たちの決意や目指すべき生徒像、人間像だと考えられるので一人称は生徒自身であることが多いと考えられる。

風物は学校が設立された地域の風土を表すものとして使われると予想する。さらに希望や明るい未来を表すような表現を「光」や「空」などの風物を使って表すパターンなども考えられる。生徒の行動を表す動詞もプラスイメージのものが多くなると予想される。校歌はその学校の創られた時の目指すべき生徒の精神や校風を歌っているものであるから、学校生活の目標はほとんどの学校の歌詞の中で歌われているのではないだろうか。

私の経験の中では応援歌は部活の大会であったり、大会の壮行式で歌われるものだったので、生徒自身が自分たちを鼓舞するような内容になっているのではないかと考える。そのため、「フレー」や「燃えろ」といった応援に関する調節的な表現が多く見られるのではないかと予想される。

校歌は集会などの学校行事で歌われるもので、応援歌は部活や運動会などのスポーツがメインになる行事で歌われるもので歌われる場面に大きな違いがあり、そこが歌詞の特徴として表れているのではないだろうか。

第二章 分析結果、考察

第一節 校歌について

第一章第二節で述べたように分析結果を出す。

第一項 分析項目について

1, 風物

校歌の歌詞の中で出てくる自然や生き物に関する単語を抽出し、集計した。なお、1曲の校歌に同じ単語が2回、3回と出てくる場合は1曲で1つとカウントしている。

キーワード頻度表

順位	頻度	語	順位	頻度	語	順位	頻度	語
1	38	山	21	6	野	41	2	島
2	33	雲	22	6	大地	42	2	陽
3	32	空	23	5	火	43	2	灘
4	29	光	24	4	葉	44	2	春
5	29	風	25	4	霜	45	2	焰
6	28	海	26	4	月	46	2	岬
7	26	花	27	4	森	47	2	青葉
8	22	川	28	3	大空	48	2	緑
9	20	丘	29	3	山河	49	2	岩
10	19	波	30	3	原	50	1	海原
11	14	峰	31	3	木	51	1	海潮
12	14	星	32	3	霞	52	1	湖
13	11	水	33	3	富士	53	1	天雲
14	11	雪	34	3	虹	54	1	嶺
15	10	潮	35	2	芽	55	1	太陽
16	7	泉	36	2	若草	56	1	川原
17	7	桜	37	2	草	57	1	炎
18	7	天	38	2	日	58	1	平野
19	7	鳥	39	2	湾	59	1	煙
20	6	嵐	40	2	蛍	60	1	砂丘

歌詞の中に頻出している風物の単語で特に多く使われていたものは、「山」、「雲」、「空」などであった。一番多かった「山」は、今回調査した全 100 校中 38 校の校歌で使用されている。次点の「雲」は 33 校、「空」も 32 校と多くの校歌の中で使用されている。

・「山」が使われている歌詞の例

牟婁の山 牟婁の海

崇高に明媚なり

我これに応えばや

我が友よ学ばまし

国土いたはり野に山に

文化をきづく我等なり

(和歌山県立熊野高等学校)

・「雲」「空」が使われている歌詞の例

叡智の風の 訪れうけて

われらは伸びる いま伸びる

ゆれ ゆれ 梢 ゆれ梢

雲のながれる 大空さして

人となる日を いま待つわれら

われらの母校 その名津名

(兵庫県立津名高等学校)

このような頻出する単語は、他の風物の単語と比べても、私たちが生活する中で頻繁に見るものが多い。また、季節や学校のある場所によっては見られないということもなくどんなどきも、日本全国見られるものである。「雪」、「霜」、「桜」などの季節や地方によっては見られないような単語であるので、校歌の歌詞の中でも使われる頻度があまり多くないことが考えられる。これは「虹」、「蛍」などほとんど一瞬しか見られない貴重なものが頻度として少ないことも同様だろう。

また、生き物を表す単語は「鳥」、「蛍」の 2 種類しか見られなかった。「鳥」は 100 曲中 7 曲の校歌に使われている。「蛍」は 100 曲中 2 曲だけで、生き物が使われる歌詞は全体の 10% しかないことが分かった。

・「鳥」が使われている歌詞の例

四季豊か 鳥の音響く 学園は

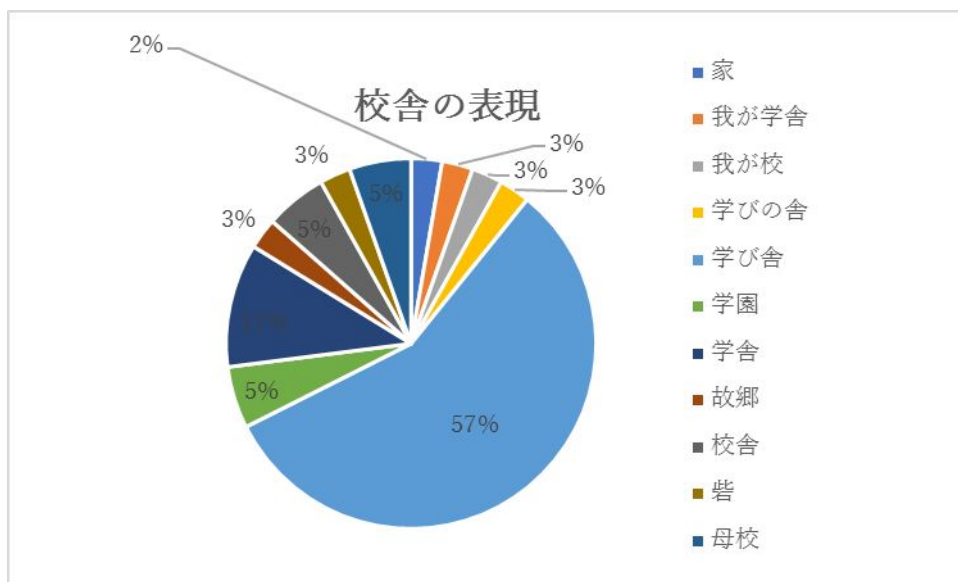
伝統長く 受け継いで

(石川県金沢学院高等学校)

2 校舎の表現

歌詞の中で校舎をどのように表現しているかを調べる。

全体 100 曲のうち、歌詞の中に校舎の直接的な表現が無かったものが全体の 63%を占めた。その他の学校の校舎の表現があったものについて分析していく。



全体の中で最も多いのは「学び舎」の 57%である。次点で「学舎」の 11%で、その他は全体的にばらけている。

全体の 63%が校舎の表現がされていなかったのは、歌詞の中で場所が学校や校舎の中で進行するものが無いからであると考えられる。校舎の表現が無かったものが半分以上を占めたことについて考えてみたい。

・校舎の表現が無いもの

科学の栄かがやかに

映ゆる名古屋の千種台

風さやかなるさみどりの

丘に秀でて聳え立つ

白堊の塔に若人が

生命の宴繚乱と

夢はるかなる星慕ひ

三とせの春を謳ふかな

(愛知工業大学名電高等学校)

この校歌のように、歌詞の中の場所として、学校内が選ばれることがほとんどないので、校舎自体の表現が少なかったということが予想できる。校舎についての直接的な表現があった 37%についても、同様に場所が学校であるという例は少ない。

・「学舎」が使われているもの

風にさそわれ集いし我ら

匂いたて水仙 祈りをこめて

あたたかなる 太陽

青き学び舎

徳下に学ばん 友と友

深き瞑想 我を悟る

春の 花咲徳栄高校

(埼玉県花咲徳栄高等学校)

この校歌には「学び舎」という表現があるが、歌詞全体が学校の中で進行しているということではない。このことから、全体 100 曲の中に校舎の表現が少なかったことが考えられる。

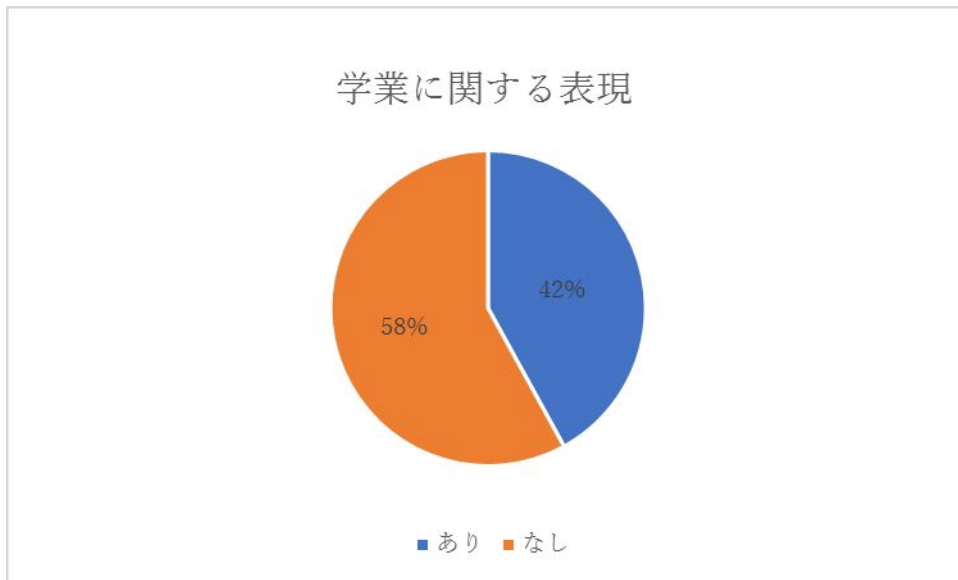
3、学業、勉強に関する表現

歌詞の中で学業や勉強に関するキーワードや表現について分析する。歌詞の中の単語で学業や勉強に関連するキーワードとしたものとその頻度は次の通りである。

キーワードの中には、「学び」、「学問」といった、学業を直接的に表すものもあれば、「ペン」、「知性」といった学業を連想させるようなものも見られた。しかし、多くの割合を占めたものは、学業に関する直接的な表現のものであった。

順位	使用 頻度	語
1	11	学び
2	3	知
3	3	究
4	2	勉
5	2	学問
6	1	府
7	1	文化
8	1	求学
9	1	ペン
10	1	知性
11	1	研学
12	1	磨
13	1	科学
14	1	積
15	1	勤
16	1	練
17	4	道

次に、これらのキーワードが使われていた学校の割合をしてみることにする



キーワードがあった学校の割合は、全体の内の半分近くに迫る 42%だった。校歌は学校の建学の理念が歌われているものなので、そこに学業についてのキーワードや表現が多く含まれることは当然であろう。学生の本分は学業であるからこそそのものだと考える。

・「学び」学業に関する直接的な表現のあるもの

日は昇る 瑞穂の丘に
朝雲の かがやき 満てば
ポプラの葉 そよぎて 若し
ああ 若し みどり 永久に
ここに映ゆ 学びの庭は
その名瑞陵 われらが母校

(愛知県立瑞陵高等学校)

・「ペン」学業を連想させる間接的なキーワードがあるもの

翠の光 彩なす丘べ
若い季節の 伸びゆくところ
希望さやかに うたごえみちて
ペンと桜の誓も清く
遠いはるかな 理想に燃えん

校)

(岡山県立岡山東商業高等学

しかし、学業に関するキーワードが無いものでも、学生の理想、あるべき姿を歌い、その中に学業などの要素を含んでいると考えられるものもある。

燃ゆる旭は城山に出で
自由の青空正しく歩む
明きは若き魂
われら太陽の子
友よ腕組みて
行こうよ広き世界を

(栃木県立佐野高等学校)

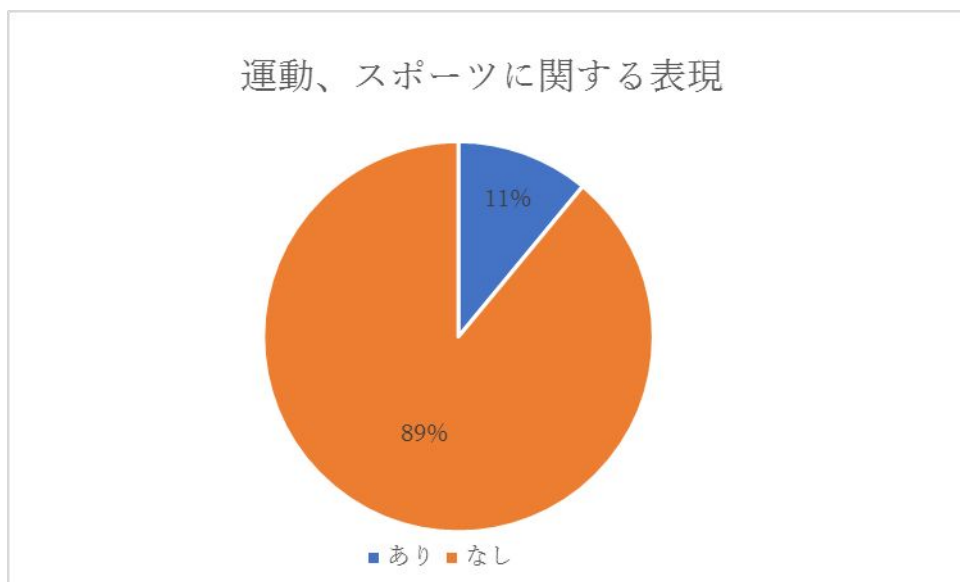
この校歌の中には、学業に関する表現は描かれていないが、「正しく歩む」、「行こうよ広き世界を」の歌詞から学生としての正しい道と理想の姿が感じられる。

4、運動、スポーツに関する表現

校歌の中の、運動やスポーツに関連するキーワードや表現を調べる。キーワードには、「テニス」、「ベースボール」のスポーツ名、「ハンマー」、「剣」などの道具、体を鍛えるという意味の「健康」、「鍛錬」があった。

順位	使用 頻度	語
1	1	スクラム
2	1	テニス
3	1	ハンマー
4	1	ベースボール
5	1	健康
6	1	剣
7	1	技
8	1	盾
9	3	鍛錬

次に、運動やスポーツに関わる表現のあった学校の割合を見てみる。



キーワードが含まれている学校は全体の 11% で非常に少ない結果になった。学業や勉強に関するキーワードや表現が含まれている学校の割合が 42% だったのでその約 4 分の 1 し

か運動やスポーツのキーワードが無かったことが分かる。校歌は建学の理念などが歌われているものなので、そこに身体の実現や運動の実現が少ないのではないかと考えられる。

このことから、校歌は学業などの文化的な要素を持つキーワードは多用されるが、運動、スポーツに関する身体的なキーワードがあまり使われていないことが分かる。

・「ベースボール」「テニス」スポーツ名が含まれるもの

平和の空の弾丸は ベースボールやロンテニス
風なき水に立つ波は ボートレースの加治の川

(新潟県立新発田高等学校)

・「ハンマー」道具が含まれるもの

半田の山の 深みどり
商神ここにて ほほえみて
ふるうハンマーに 力あり
楽しわれらが 吉備学園

(岡山商科大学附属高等学校)

・「鍛錬」体を鍛えることが含まれるもの

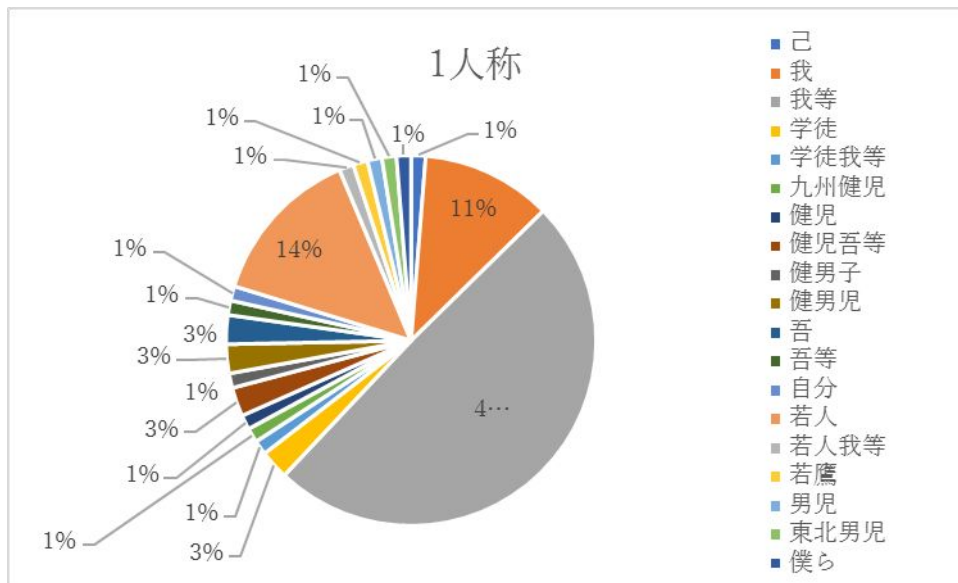
磐田が原に潔く生ひたち
根ざしも深き青葉のかほり
ああ 鍛錬の気は凝りて
堅き雄心ゆるぎなく
重き使命をになひて学ぶ
若き我等にみなぎる力

(静岡県立磐田南高等学校)

5、1人称

歌詞の中での1人称を調べる。100校中歌詞の中に1人称が無かったものは21%あった。1人称が歌詞の中にあつたものに関しては、全てが学生自身の1人称のものだった。校歌は、学生が歌うものとして作られているものなので、1人称は学生自身であることが分かる。

1番多くの割合を占める1人称は、「我等」で49%と全体の約半分を占める。その次が「若人」で14%である。次に「我」で1番多かった「我等」とほぼ同じものである。「我等」や「若人」が多く、今現在1人称として使われやすい「自分」や「僕」は1%ずつしか無かつた。



・「我等」が1人称になっている例

ああ万葉の 花と花

蛍も舞いゆく 故郷は

我等の平和と 歌わむや

友の心も 我が胸も

瞳凛々しく 栄光の旗

(大阪府関西創価高等学校)

・「僕」が1人称になっている例

若いいのち溢れよ 教えとどめてあしたを語れ分かちあい学びあうきみらとぼくら

私立と自由のあしたに輝く 山本学園高等学校

世紀の風にはばたけ 未来ごと学び眉上げ歌え励みあい睦み合うきみらとぼくら

私立と自由の夜明けの星座 山本学園高等学校

太陽の光掲げよ 真理のもとに確かに歩め青春の足どりをきみらとぼくら

私立と自由の愛をかざして 山本学園高等学校

(山形県山本学園高等学校)

1人称が入っていない学校もその他の学生の行動の描写などから学生目線から歌っているということが考えられる。

・ 1人称がない校歌の例

朝日に映える 霜降りの
清らかな姿 のぞむとき
あかるい希望 燃えあがる
伝統たかく 仰ぎつつ
進めよともに 宇部商高

(山口県立宇部商業高等学校)

「希望が燃えあがる」、「伝統を仰ぐ」、「ともに進む」の表現から、1人称が無くても歌っている主体が学生であることが分かる。

6、学生の行動

歌詞の中の学生の行動を表現する動詞を調べる。使用頻度が多かったのは、上から「学」で19回、「仰」で18回、「集」が16回という結果になった。

順位	使用頻度	語	順位	使用頻度	語	順位	使用頻度	語
1	19	学	21	4	伸	41	2	捧
2	18	仰	22	4	究	42	2	奮
3	16	集	23	4	勤	43	2	信
4	14	燃	24	3	慕	44	2	呼
5	13	進	25	3	果	45	2	継
6	8	行	26	3	競	46	2	往
7	8	求	27	3	歌	47	2	羽
8	8	立	28	3	練	48	2	想
9	6	拓	29	3	翔	49	2	固
10	6	励	30	3	育	50	2	浴
11	6	築	31	3	歩	51	2	見
12	5	生	32	3	奏	52	2	試
13	5	誓	33	3	創	53	2	誇
14	5	輝	34	3	踏	54	2	湧
15	5	掲	35	3	尽	55	2	語
16	5	望	36	3	追	56	2	滾
17	4	培	37	3	目指	57	2	讃
18	4	努	38	3	鍛	58	2	貫
19	4	抱	39	3	磨	59	2	照
20	4	謳	40	3	飛	60	2	躍

・「学」が使われているものの例

夜宮に薫る花の香に
愛のさだめのうるわしや
久遠に消えぬ誇りをば
歴史の訓えに学びつゝ
青春の道征かんかな
誠の家われらが母校
戸畑 戸畑

(福岡県立戸畑高等学校)

・「仰」が使われているものの例

風薫る 希望ヶ丘の 朝ぼらけ 真澄の空に 仰ぎ見よ
高くそびえる われらみな 理想の峰を

(北海道札幌第一高等学校)

・「進」が使われているものの例

亀城のほとり 富士のもと
われらがきそふ 学び舎は
げに清新の 若人が
偉大の夢を 抱くところ
いざ学び つとめ
いざ すすまむ

・「集」が使われているものの例

みどりなす 丘めぐりたつ
学びの舎の庭 光にみち
眉あげて 学徒は集う

(鹿児島県立鹿児島商業高等学校)

頻繁に使用されている動詞は、学校という場所を連想させるものが多い。「学」、「求」、「究」などは、学業に関するものである。「仰」、「進」、「行」は前向きな動詞で、行動の主体はどんな場合でも学生自身なので、上を向いて前に進むという心持ちが大切だということを歌ったものである。「集」、「励」は1人だけではなく何人かいないと成立しないものであるの
で、学校にたくさん学生が集まって互いに切磋琢磨していく様子を表現している。

使われている動詞の中に悲観的、後ろ向きなものはなく、学生たちが集まって向上心を持ち進んでいく様子が表現されていることが分かる。

7、学校生活の目標

歌詞の中に学校生活の中での目標や学生の決意が述べられているものを調べる。



全 100 校の中で学校生活目標が歌われているものは 97%、無いものが 3%でほぼ全ての学校の校歌に含まれていることが分かった。

校歌は、その学校の校風や、学生の気持ちを発揚させるものなので、その中に学生の目標や決意が含まれやすいということが分かる。

・学校生活の目標が歌われているものの例

両手をぐんと差し伸べて

文化の光かかげ持つ

悠久無限の大空の

星は応えてまたたきぬ

嗚呼！雄渾の命の

たぎる我等が星城高

(愛知県星城高等学校)

・学校生活の目標が無いものの例

米峰突兀雲を貫き

み空に匂がく玉芙蓉

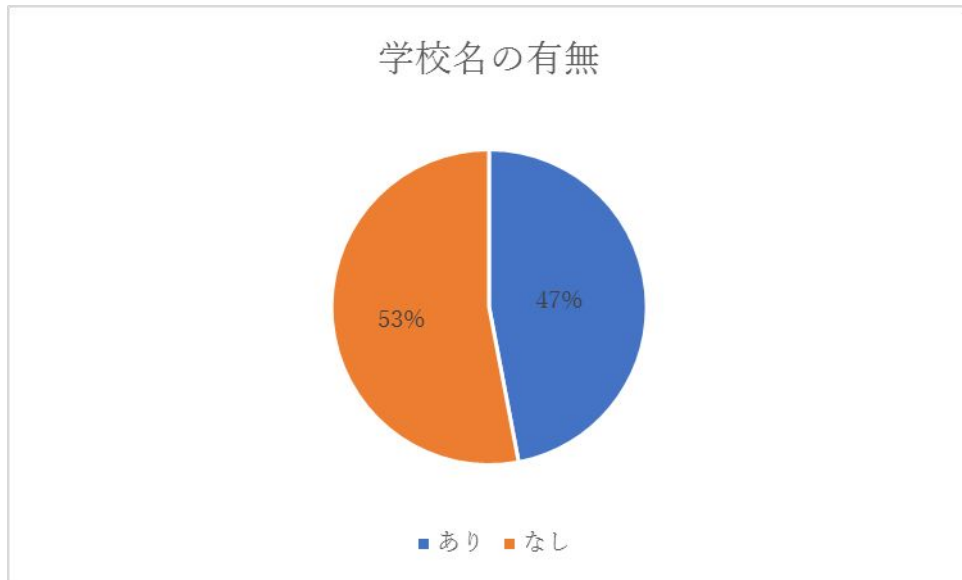
嗚呼 麗しく 嗚呼高し

くらべても見む我が校や

(新潟県立柏崎高等学校)

8、学校名の有無

校歌の歌詞の中にその学校の名前が含まれているかを調べる。



全 100 校の中で学校名が入っているものが 47%、入っていないものが 53%でおよそ半分ずつの結果になった。校歌をその学校独自のものにして、学生自らがその学校の学生だという自覚を持つために約半分の学校が学校名を歌詞の中に入れてということが考えられる。さらに、学校名を主張するために歌詞の中で何度も繰り返される場合が多い。

・学校名が歌詞の中に含まれるものの例

あかき血潮 胸に満ちて
若人真理の 泉を汲みつ
仰げば比叡 千古のみどり
伏す目に清しや 鴨の流れの
かがみもとうとし 天の明命
見よ我が母校 立命 立命

(京都府立立命館高等学校)

・学校名が含まれないものの例

あなたふと あなうるわし
豊栄昇 朝日の御影
そのかげを しるしと あふぐ
わがともがらは そのかげの
曇る時なく、あきらけく
ともに ともに いそしまむ いざ いざ 怠らず

(宮城県仙台)第二高等学校)

第2項 歌詞の構成

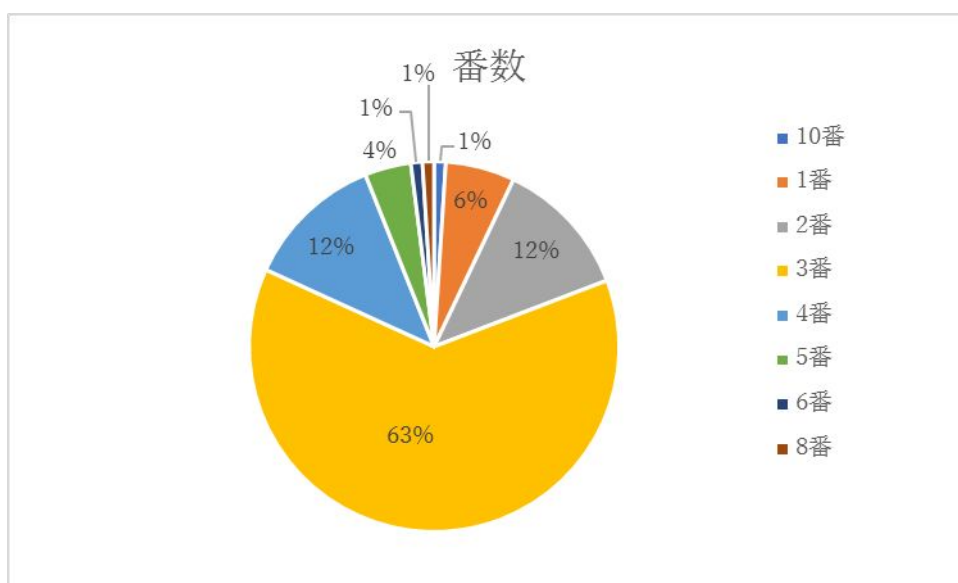
また、校歌によって番数が違うが、番数によって歌詞がどのように違って、どのような流れで進んでいくのかを(1)場所型、(2)時間型、(3)場所、時間型に分類した。

場所型・・・一番が海、二番が森、三番が川のように場所ごとに歌が進んでゆく。

時間型・・・一番が朝、二番が昼、三番が夜のように時間の経過に伴って歌が進んでゆく。

場所、時間型・・・番数が進むにつれて場所と時間が同時に変化しながら進んでいく

まず、全体 100 曲の番数の割合は次のようになっている。

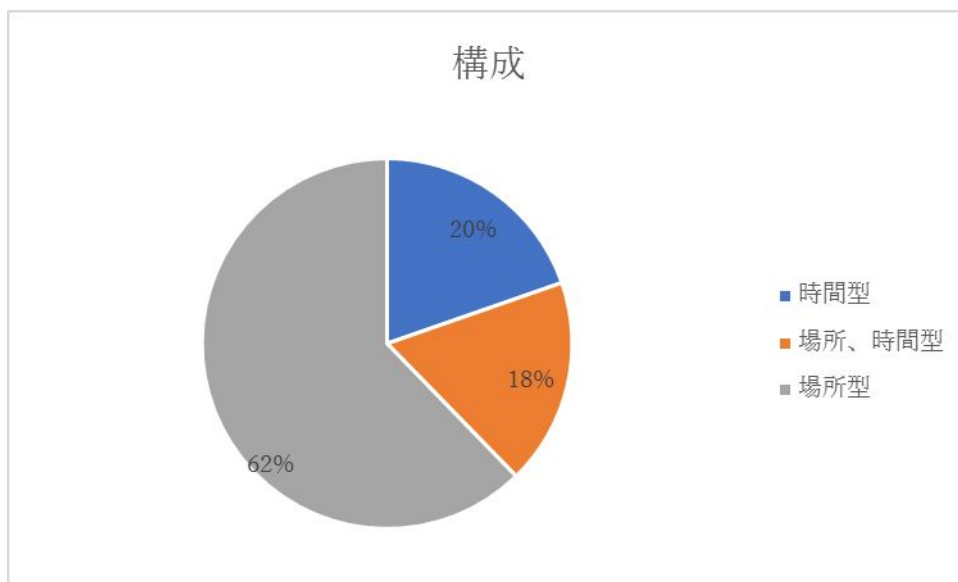


全 100 曲の中で、1 番多くの割合を占めたのが、63%で半分以上を占めた 3 番構成の校歌だった。次に 2 番構成、4 番構成の校歌が 12%である。集会などの学校行事で歌われる校歌は、時間があまりかかりすぎない、すぐ終わってしまわないような長さで 2 番～4 番構成の校歌が多くなっているのだと考えられる。しかし、1%しかないが 8 番構成、10 番構成の校歌もあった。このように番数の多い校歌は 1 番ごとの歌詞が番数の少ない校歌と比較すると短くなっている。

・ 10 番構成になっている校歌の 1 番
蒲城の東五十公野の 大空高く聳ゆるは
これぞ吾々学生が 教を受くる校舎なる

(新潟県立新発田高等学校)

次に、型ごとの歌詞の構成を分析する。全体の内の39%は場所、時間の区別が無い構成になっていた。その39%を除いて、分析していく。場所型の校歌の割合が62%と一番多かった。時間型と場所、時間型は20%、18%とほぼ同じ結果になった。



・時間型の校歌の例(季節で進行する)

- 1、風にさそわれ集いし我ら
匂いたて水仙 祈りをこめて
あたたかなる 太陽
青き学び舎
徳下に学ばん 友と友
深き瞑想 我を悟る
春の 花咲徳栄高校
- 2、望む富士山 我らをいざなう
青空より澄みて校旗ひらめく
燃えあがれ校庭
走りし我ら
今日学べの基にあり
輝きわたる青春
夏の 花咲徳栄高校
- 3、菊の香りに 師の影ながし
こもれびのやさしさ仏心を授く
愛の手にみちびく
瞑想の森

意志あるところ道ありと
学びし我ら 未来あり
秋の 花咲徳栄高校
4、寒風鳴りて 我らをまねく
冴えかえる赤心岸による
父母ありて いたりし
天龍の地
積善つとめ日々新らた
せんだん薫り成人となる
冬の 花咲徳栄高校

(栃木県花咲徳栄高等学校)

・時間型の校歌の例(1日の時間の流れで進行する)

1. 遙かなる二つ山脈

北上は北の動脈
ここみちのくの大いなる地に
そびえたつわが学び舎ぞ
水沢 水沢 ああ水沢
われらが母校 水沢

2. きらら星先達あふれ

生かさばや強き伝統
真と善と美はげしく求め
高鳴るよ若き胸ぬち
水沢 水沢 ああ水沢
われらが母校 水沢

3. 駒ヶ嶽四季のあけぼの

その高き夢の象徴
日よ輝けよ雪の徽章に
われらみな未来を負わん
水沢 水沢 ああ水沢
われらが母校 水沢

時間型の校歌は、番数が進んでいくにつれて、時間も同時に進んでいく。上の校歌は、1番が春、2番が夏、3番が秋、4番が冬と季節の流れに合わせて校歌が進行していく。その他の時間型の構成として、朝、昼、夜というように、1日の時間流れにが関わって進んでいくものもある。

・場所型の校歌の例

1 空は晴れたり金剛の

山なみ遠く輝きて
若き生命をたたえつつ
自由の鐘を打ち鳴らす
理想は高し 三丘生

2 水は澄みたりちぬの海の

波のうねりも安らかに
若き生命をたたえつつ
平和の祈り捧ぐなり
えい智は深し 三丘生

3 人は和ぎたり学舎の

愛の契りは固くして
若き生命をたたえつつ
正義の旗を振りかざす
使命は重し 三丘生

(大阪府三国丘高等学校)

場所型の校歌は、番数によって場所が変化する。上の校歌は1番が「空」、2番が「海」、3番が「学舎」というように表現される、歌われる場所、舞台が変化しているのが分かる。

・場所、時間型の校歌の例

1、見よや 麗わしの誠の光

昇る旭日に ほのぼのと
匂う桜は 明く浄らに
愛と敬とに 輝き燃ゆる
若人われら 平和の芽ぐみ
日大三麓 この意気漲る

2、見よや 明るく正しく強く

雲井はるかに 玲瓏と
聳ゆる富士は 純白くうららに
我日本の 行く道 照らす
若人われら 文化の守り
日大三麓 この意気漲る

3、見よや 栄光の真魂は躍る

夕べさやかに 照る星の
緑に映ゆる 丘とこしえに
希望新たに 胸は高鳴る
若人われら 大道進む
日大三賢 この意気漲る

(東京都日本大学第三高等学校)

場所、時間型の校歌は番数に沿って場所と時間が同時に変化していく。上の校歌では時間が「旭日昇る」と朝から、「夕べさやかに照る星の」と夜まで変化している。それと同時に、山から丘へと場所の変化もある。

第二節 応援歌について

第一章第二節で述べたように校歌と同様に分析結果を出す。

第一項 分析項目について

1、 風物

校歌と同様に、応援歌の歌詞の中で出てくる自然や生き物に関する単語を抽出し、集計した。なお、1曲の校歌に同じ単語が2回、3回と出てくる場合は1曲で1つとカウントしている。

順位	使用 頻度	語	順位	使用 頻度	語	順位	使用 頻度	語
1	26	空	21	4	水	41	1	州
2	21	山	22	4	原	42	1	穂
3	17	風	23	3	陸	43	1	霞
4	16	花	24	3	雪	44	1	日
5	14	雲	25	3	浜	45	1	露
6	13	海	26	3	葉	46	1	水仙
7	12	天	27	3	野	47	1	馬
8	12	炎	28	2	虹	48	2	鮎
9	12	光	29	2	森	49	2	鹿
10	10	峰	30	2	木			
11	9	丘	31	2	霧			
12	8	火	32	2	雨			
13	8	霜	33	1	茜			
14	8	潮	34	1	沖			
15	7	月	35	1	泉			
16	6	草	36	1	地			
17	5	大地	37	1	暁			
18	5	波	38	1	陽			
19	5	川	39	1	宇宙			
20	5	星	40	1	梅			

応援歌に使用されている風物の中で1番多かったものが、「空」であった。次に「山」、「風」と続いていく。「霜」「雪」「月」などの見られる時間の限定されているものや、季節性のある風物、動物は見られたものの少なかった。応援歌は主に競技の応援で歌われるものなので、「空」などのどこからでも眺めることのできて、広く広大なイメージのあるものが頻繁に使用されていることが考えられる。「山」などの他の風物についても同様に言えるだろう。

また、本来自然のものではない「炎や「火」が頻繁に使われているのは学生の燃えあがる闘志や情熱を表現しているものだと考えられる。

・「空」が使用されている応援歌の例

白雲なびく大空の下 永久の理想に燃ゆる若人
雄々しく今ぞはばたかん 我等が母校 岡山東
フレイフレイ 東 岡山東

校)

(岡山県立岡山東商業高等学校)

・「炎」の使用されている応援歌の例

碧空高く雲晴れぬ
行け高熱の我が友よ
炎と燃ゆる唐紅は
血潮の色や応援旗

校)

(広島県福山誠之館高等学校)

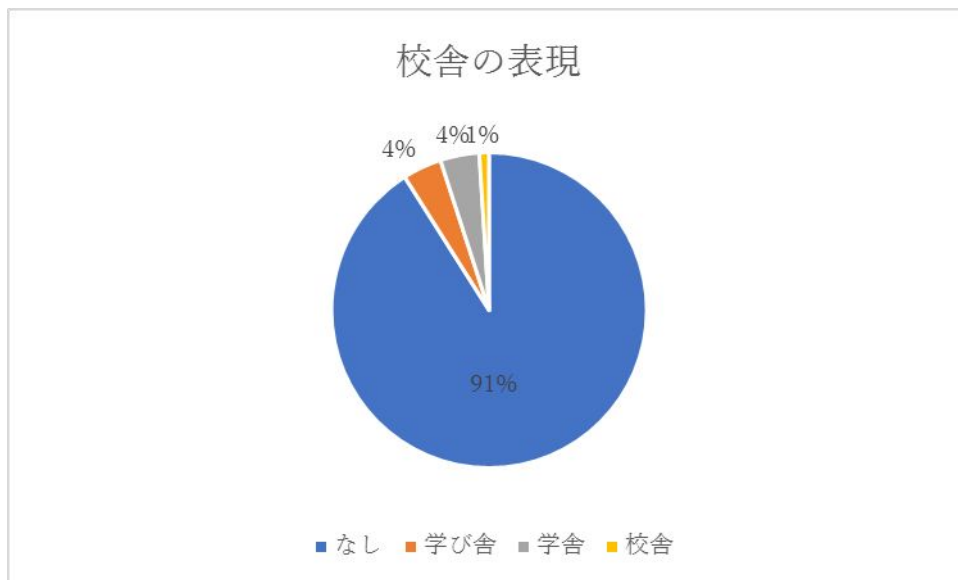
・「火」の使用されている応援歌の例

伝統若く火の山の
燃ゆる炎を胸に抱き
熱暑寒苦と戦ひし
火を吐く打つ振るはずや
(フレイフレイハヤトモ)

(山口県早鞆高等学校)

2 校舎の表現

歌詞の中で校舎をどのように表現しているかを調べる。



全 100 曲中、校舎の表現が無かったものが 91%と大半を占めた。校舎の表現のあったものの表現の種類は少なく、「学び舎」、「校舎」が 4%ずつ、「校舎」が 1%という結果になった。応援歌は競技の応援で使用され、学校の中で歌われる場面が少なかったり、学業に関連して歌われることが無いことで、校舎自体を表現するものが少なかったことが考えられる。

・校舎の表現が無い応援歌の例

緑豊かな山に囲まれ

至誠一貫 心は一つ

命を懸けて努力をすれば

勝利の女神は味方する

夢に向かって頑張ろう

誠英！ 誠英！ 誠英！

三田尻 誠英

(山口県誠英高等学校)

・「学び舎」が使用されている応援歌の例

錦江湾の奥深く 天を突き刺す蔵王岳

緑の杜に囲まれた 我が学び舎の士気高し

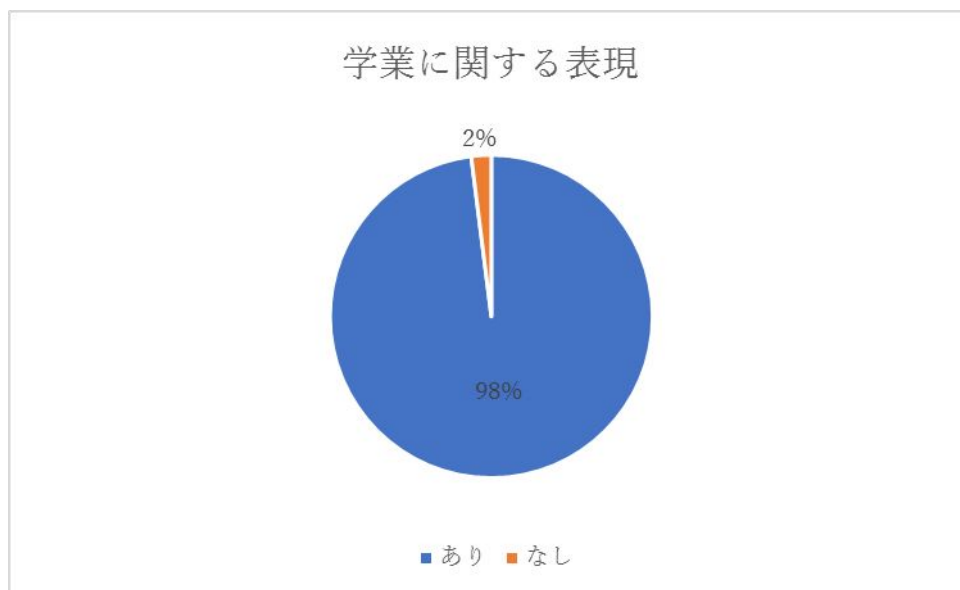
剛毅の風を轟かせ 若き力よ湧きあがれ

加高健児に 勝利あれ

(鹿児島県立加治木高等学校)

3、学業、勉強に関する表現

応援歌の歌詞の中で学業や勉強に関するキーワードや表現について分析する。



応援歌の中で学業に関する表現があったのはわずか2%であった。98%の応援歌が学業に関する表現を含んでいなかった。学業に関するキーワードがあった2%は「ペン」、「学び」の2つだけだった。第一章で調べた応援歌の意味が「競技などで、味方・ひいきのチームや選手を応援するための歌」であったように、学業と関連する部分は応援歌にはほとんど見られないことが分かった。

・「ペン」が使用されている応援歌の例

ペンと桜の誇りも高く 学び練りにし我等が友よ
誉れを今ぞ打ち立てん 我等が母校 岡山東
フレイフレー 東 岡山東
校)

(岡山県立岡山東商業高等学校)

・「学び」が使用されている応援歌の例

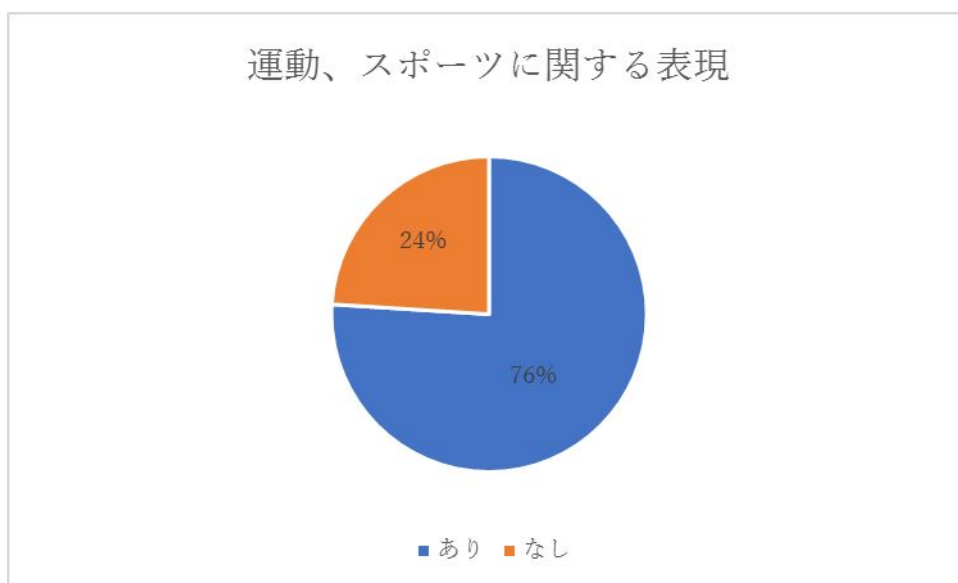
嗚呼 東の空遠く
東洋のベニスと謳われし都
堺の巷 低く見て
雄々しく立てり我等三丘健児
熱き情熱のかげに瞬く
不滅の光と不断の思い出
アカシヤ薫る学びの庭に
いざ歌わんかな 三国丘を

いざ讃えんかな 我等が母校

(大阪府三国丘高等学校)

4、運動、スポーツに関する表現

応援歌の中の、運動やスポーツに関連するキーワードや表現を調べる。



応援歌全 100 曲の中で運動やスポーツに関する表現のあったものは76%だった。学業に関する表現と比較すると圧倒的に運動やスポーツに関する表現の含まれる割合が高いことが分かった。応援歌は、学校の部活や競技などで歌われる場面が多いので、運動に関係したキーワードが多く使われることが分かった。

・運動やスポーツの関する表現の無い応援歌の例

二川の水に 育まれ
飛び立つわれら 若鷲ぞ
眼下に展げし 学の都は
いらか清けき わが城下
ここに集いて青春の
歌声ひびけ空高く
ああ ああ 金沢学院

(石川県金沢学院高等学校)

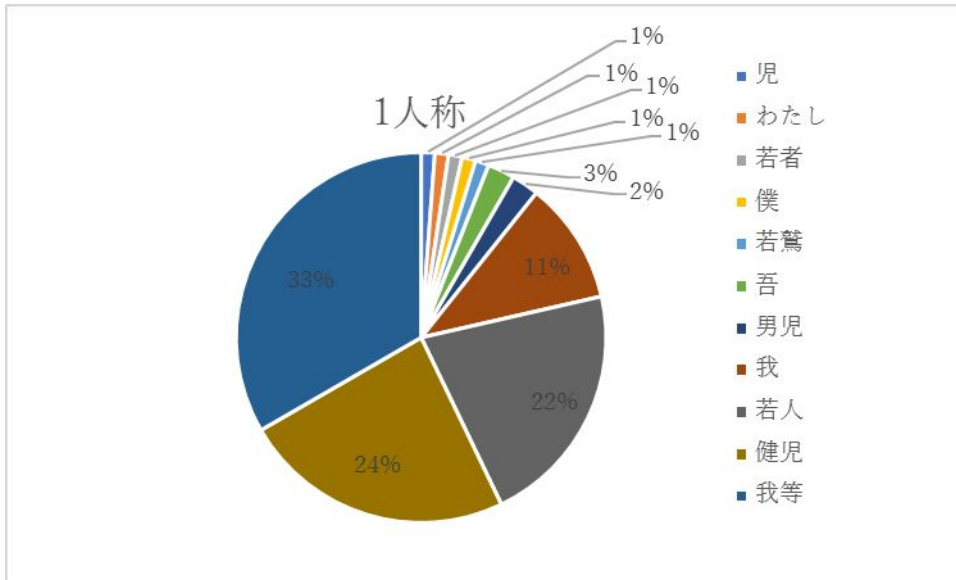
一方、上の応援歌のように運動やスポーツに関連するキーワードが無いも応援歌も24%存在した。「飛び立つわれら 若鷲ぞ」と学生たちの逞しさや強さを表現している部分はあり、直接的に学生への応援を表現するのではなく、例えを使用したりしながら表現していることが分かる。

続いて、キーワードを見ていく。最も頻繁に使用されていたのが、「鍛」だった。次に「闘い」、「選手」と続く次のような結果になった。体を鍛えること、または鍛えられた学生の姿を表現する「選手」や「スポーツマン」、競技大会で勝利することを目指す「栄冠」、「覇者」、「制覇」、闘いの場を表現する「グラウンド」、「オリンピア」などがあつた。

順位	使用 頻度	語	順位	使用 頻度	語	順位	使用 頻度	語
1	18	鍛	21	1	スパルタ	41	1	ベスト
2	13	闘い	22	1	大会	42	1	争
3	8	選手	23	1	大声援	43	7	闘志
4	7	栄冠	24	1	奮闘	44	6	闘魂
5	4	覇者	25	1	常勝			
6	4	敵	26	1	応援旗			
7	2	制覇	27	1	オリンピア			
8	2	勝	28	1	攻防			
9	2	戦	29	1	スピード			
10	2	グラウンド	30	1	敵軍			
11	2	栄光	31	1	スポーツ			
12	2	スクラム	32	1	スポーツマン			
13	2	覇権	33	1	武器			
14	2	スピリット	34	1	汗			
15	2	チーム	35	1	猛練習			
16	2	ナイン	36	1	球場			
17	2	冠	37	1	競技			
18	1	ゴール	38	1	チャンス			
19	1	カーブ	39	1	グレイター			
20	1	剣	40	1	グレーター			

5、1人称

歌詞の中での1人称を調べる。



全100曲中、歌詞の中に1人称が含まれていない応援歌が16%あった。上のグラフは1人称が無かった応援歌を除いたものである。1番多かったものが、「我等」で33%、次に「健児」で24%、「若人」で22%という結果になった。現在1人称として使われやすい「僕」は1%ではあるが見られた。

- ・1人称が「我等」の応援歌の例

霜忘れたる玉ゆらに
春よみがえるときめきや
広野に燃ゆる青草の
桃李一時に花咲きて
我等が選手いまここに
勝って帰ると集いたり

(岩手県立水沢高等学校)

- ・1人称が「僕」の応援歌の例

若い誓のともどもに
ゆるぐことはない 君と僕たち
行こう大空 我等の心
きっとかなえる 勝利の力
グレイター星城 いざ進め

(愛知県星城高等学校)

6、学生の行動

歌詞の中の学生の行動を表現する動詞を調べる。使用頻度が1番多かったのは「燃」で23回、次に「立」で22回、「行」で13回という結果になった。応援に使用されるものなので、後ろ向きな動詞は無く、前向きなものばかりだった。「燃」、「滾」、「湧」など学生の沸き立つ闘志を表現している動詞も多く見られた。「競」、「闘」という勝負を直接表現したものもあった。

順位	使用頻度	語	順位	使用頻度	語	順位	使用頻度	語
1	23	燃	21	3	結	41	1	漲
2	22	立	22	3	勝	42	1	払
3	13	行	23	3	誇	43	1	信
4	11	進	24	3	叶	44	1	狂
5	9	滾	25	3	踊	45	1	担
6	8	競	26	3	掴	46	1	拓
7	7	振	27	3	戦	47	1	拳
8	6	歌	28	3	打	48	1	秘
9	6	輝	29	3	闘	49	1	突
10	6	示	30	2	受	50	1	刻
11	5	仰	31	2	破	51	1	捧
12	5	守	32	2	磨	52	1	向
13	4	伸	33	2	汲	53	1	羽
14	4	湧	34	2	励	54	1	翔
15	4	抱	35	2	掲	55	1	耐
16	4	走	36	2	照	56	1	告
17	4	奮	37	2	舞	57	1	描
18	4	轟	38	1	伝	58	1	託
19	4	望	39	1	勇	59	1	撃
20	3	歩	40	1	争	60	1	讃

・「燃」が使われている応援歌の例

朝 双子の雲はれて
清流 桂のせせらぎに
巖然起ちし若人の
若き血潮は 燃ゆるなり

(大分県立高田高等学校)

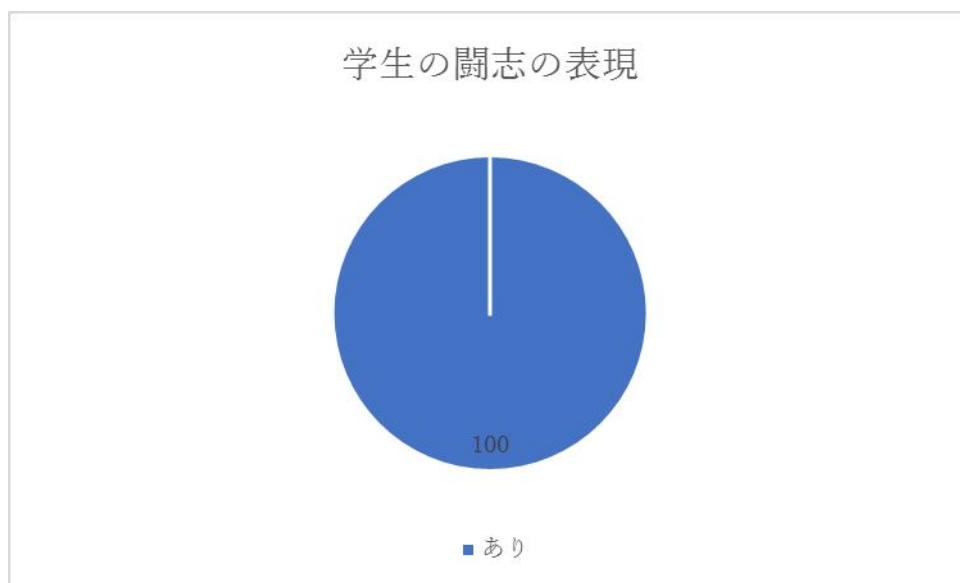
・「競」が使われている応援歌の例

胸に溢るる熱き血に
今日の競いの晴れがまし
取りてかぜさる大はいは
ああ感激の目にうるむ
ああ中原に鹿を追う
伊高健児の意気高し

(佐賀県立伊万里高等学校)

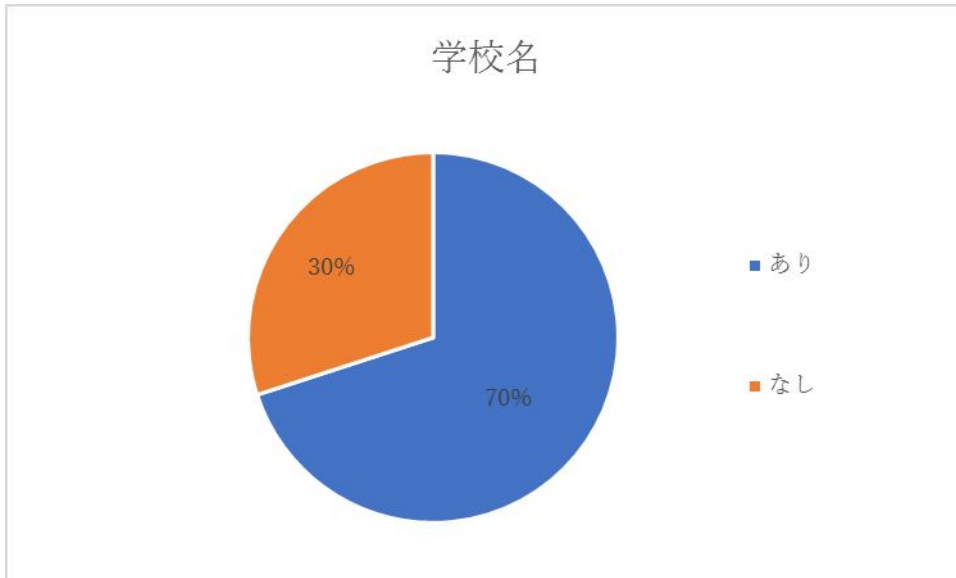
7、学生の闘志、勝利への思い

歌詞の中に学校生活の中での目標や学生の決意が述べられているものを調べる。校歌とは歌われる場面、目的が違うので応援歌の場合は学生の闘志や勝利への思いが歌われているものを調べる。応援歌全 100 曲で、学生のこのような思いが歌われていることが分かった。



8、学校名の有無

応援歌の歌詞の中にその学校の名前が含まれているかを調べる。



応援歌全 100 曲中、学校名が歌詞の中に含まれているものが 70%、含まれていないものが 30%だった。まず、自分の学校に誇りを持って戦えるように 70%の学校が学校名を使用しているのだと考えられる。プロ野球の応援歌などでも、選手名を何度も繰り返すような部分の歌詞があるが、学校の応援歌においては学校名を何度も繰り返す部分がある学校がいくつか見られた。選手の応援をし、選手自身が士気を高めるために何度も学校名を繰り返していることが考えられる。

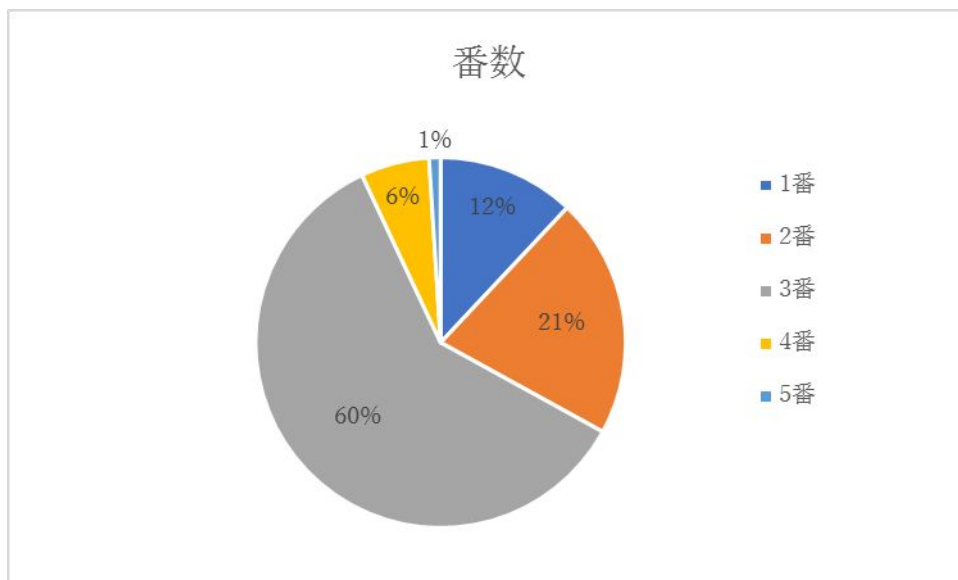
・学校名が繰り返されている応援歌の例

荒城春の思い出を
金杯花とかざるべく
君が腕の一振りに
望みを託すものは誰ぞ
岸高 岸高 岸高 岸高
われらが岸高

(大阪府立岸和田高等学校)

第二項 構成

校歌と同様に、「場所型」、「時間型」、「場所、時間型」の分析項目で応援歌も分析していく。まずは、全 100 曲の番数を見ていくことにする。



1 番多かったのは 3 番構成になっている応援歌で、60%と半分以上を占めた。次に 2 番構成で 21%、1 番構成が 12%である。4 番構成以上の応援歌は 7%しかなく、応援歌の番数は 3 番構成までのあまり長くないものが多いことが分かった。

・ 5 番構成になっている応援歌の例

1、 浅間の煙仰ぎつつ

寸暇を惜しみ技を練る
ナインの胸に希望湧く
得意のスピードインカーブ
練磨の前に敵はなし
柏柏柏の操 輝く我等

2、 利根の流れを見下ろして

鍛えし胸に勇み立つ
ナインの胸に誓いあり
内野外野の的確さ
捕えるフォーム鮮やかに
柏柏柏の操 輝く我等

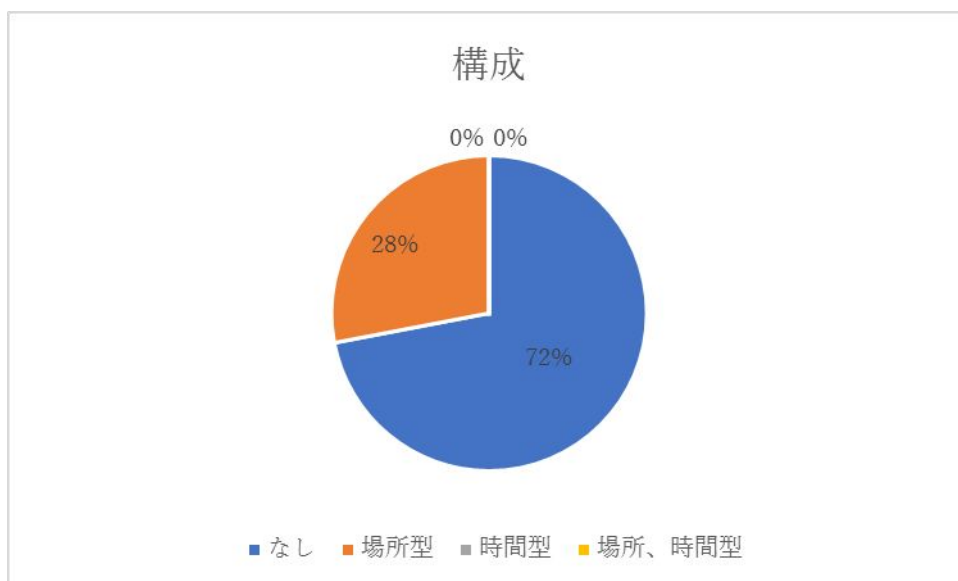
3、やけつく炎焼何のその
砂かむ球に技を練る
ナインの胸に矜りあり
ショートロングの意のままに
外野オーバーは我が得意
柏柏柏の操 輝く我等

4、黄塵烈風ものとせず
飛び交う球に技を練る
ナインの胸に涙あり
苦節無言の猛練習
無双の強豪我がチーム
柏柏柏の操 輝く我等

5、嗚呼我勝てり我勝てり
栄冠高く輝きて
ナインの胸に誉れあり
闘ひ果し決戦場
感激の波轟けり
柏柏柏の操 称へん我ら

(埼玉県立本庄高等学校)

次に、型ごとの歌詞の構成を分析する。



応援歌全 100 曲の 72%は、校歌でのこの分析項目には当てはまらなかった。残りの 28%は場所型の応援歌だった。このことから応援歌はスポーツなどの戦いに挑む学生の心情や、自らを応援して鼓舞するようなストレートな表現が多いことが分かる。

・場所型の応援歌の例

1. 常磐の森の奥深く

燃ゆる血潮に花染めて
勝利に進む若人が
きたえし腕堂々と
戦い抜くはこの時ぞ
おゝ香椎 香椎 わが母校

2. 立花山の峰おろし

意気高らかに眉あげて
勝利に進む若人が
結びし腕がっちり
戦い抜くはこの時ぞ
おゝ香椎 香椎 わが母校

3. 玄海の波狂うとも

たおれて止まぬ心もて
勝利に進む若人が
雄々しき腕整々と
戦い抜くはこの時ぞ
おゝ香椎 香椎 わが母校

(福岡県立香椎高等学校)

また、応援歌の中には歌詞だけではなく、「フレーフレー」や「ラララ」、「ワッショイ」など応援を表す愛の手のような言葉が全 100 曲中 18 曲で見られた。

・「フレ」合いの手が使われている応援歌の例

潮風かおる大玄海

こゝ天籟の丘に立つ

雄々し若人意気高し

行けや行け行け勝利の道を

天をゆるがすどよめきをもて

フレフレ戸高フレフレ戸高

(福岡県立戸畑高等学校)

応援歌の中に、競技を野球に限定した応援歌が 100 曲中 6 曲見られた。

・野球を表現している応援歌の例

浅間の煙仰ぎつつ

寸暇を惜しみ技を練る

ナインの胸に希望湧く

得意のスピードインカーブ

練磨の前に敵はなし

柏柏柏の操 輝く我等

校)

(埼玉県立本庄高等学校)

英語が使われている応援歌も 100 曲中 1 曲だけが見られた。

・英語の歌詞が使われている応援歌の例

今まで流した涙の分 今日はず勝利して

誓った夢をかなえたい

仲間と過ごしたこの時間 一瞬たりとも忘れない

二度とは帰らぬ今だから

己の命をここにかけ 勝利の栄冠つかむまで

I WILL FIGHT FOR YOU

WIN THE VICTORY

新世 新世 ありあけ新世

(福岡県立ありあけ新世高等学校)

第三節 校歌、応援歌を比較して

○風物について

校歌、応援歌共に頻繁に使われている風物はどの地域でも、いつでも触れられるもの、見ることが出来るものという点で共通していた。反対に「雪」などのどこでもどんな時でも見られるわけでは無い風物に関してはあまり頻繁に使われていなかったという点でも校歌応援歌共に共通していた。校歌ではあまり頻繁に使われていなかった「火」や「炎」が応援歌では学生の闘志、熱さを表現するものとして頻繁に使われていることが分かった。

○校舎の表現

校歌では63%が校舎の表現が無かったが応援歌でも91%が校舎の表現が無く、応援歌の方が少なかった。さらに、校歌では校舎の表現が11種類あったが、応援歌では3種類しか見られなかった。応援歌は競技を応援するものなので、「学校」という場所にスポットが当たらなかったということが考えられる。校歌は、学校生活の目標を歌ったものなので、直接的な場所は学校ではないかもしれないが校舎の表現が多くなり、いろいろな種類の表現がされたことが考えられる。

○学業に関する表現

校歌では、学業に関する表現が全体の42%の校歌に見られたが、応援歌ではわずか2%しか無かった。校歌は学校生活全体のことを歌っているのも、もちろん学業に関するキーワードは多くなる。しかし応援歌は競技や部活を応援する目的の上で作られているので、学業に関するキーワードがほとんど出てこなかったことが考えられる。

○運動やスポーツに関する表現

校歌では11%しか無かった運動やスポーツに関する表現が応援歌の方では72%その表現が使われていた。校歌も、学校生活全般について歌われているので、心身ともに健康な学生を理想像とする目的で運動、スポーツに関する表現が使われていた。しかし応援歌は、校歌よりさらに競技などの部分にスポットしているのも、校歌より圧倒的に運動やスポーツに関する表現が多くなったことが考えられる。

○1人称

校歌、応援歌共に1人称が含まれていないものは全体の約20%でほぼ同じだった。「我等」の1人称が一番多かったという点でも共通している。現在、1人称としてよく使用される「僕」、「私」が少なかったという点でも同じだった。1人称の種類は、校歌が19種類、応援歌が11種類で校歌の方が多かった。行動の主体は全て学生で共通しているのも、校歌の方が1人称に関しては表現の幅が広がったことが分かった。

○学生の行動

校歌で頻繁に使われていた行動は「学」、「仰」、「集」と学校の様子と主に学業を表現するものが多かった。それに対して応援歌は「燃」、「立」、「行」が頻繁に使用されていて、学生の心情を表現しているものが多かったことが分かる。これは、校歌と応援歌の歌われる目的の違いから生まれるものだと考える。

○学校生活の目標、学生の闘志

校歌に関しては、学校生活の目標が表現されているものは全体の97%、応援歌に関しては学生の闘志や決意が全ての応援歌で表現されていて、共通して学生の目標がほぼ全ての校歌応援歌で表現されていることが分かった。

○学校名の有無

校歌では、学校名が含まれているものが全体の47%と約半分だった。応援歌は全体の70%に学校名が含まれていて、応援歌の方がその割合が高いことが分かった。様々な場合に、応援の意味でチーム名や個人名を叫ぶのと同じで、高校応援歌においても学校の名前を繰り返す部分があったので、校歌と比較すると多くの応援歌に学校名が含まれていることが考えられる。

○その他

応援歌には、校歌にはなかった「フレ」などの合いの手や英語の歌詞が含まれているものもあった。

○構成

番数に関しては、校歌応援歌共に3番構成の曲が1番多かったという点で共通していた。しかし校歌は8番構成や10番構成など長めの構成になっている曲があったが、応援歌は1番多い曲の番数で5番までだった。

さらに校歌は場所型、時間型、場所、時間型の場所や時間が番数によって切り替わっていく構成になっているものが全体の61%あったが、応援歌は場所型の曲が全体の28%で時間型や、場所、時間型の曲は見られなかった。このことから、応援歌は校歌と比較して局の中で起こる場所や時間の変化が少ないことが分かった。

第三章 結論と今後の課題

第一節 結論

校歌は、第一章第一節で調べた言葉としての意味が「学校で、建学の理想をうたい、校風を発揚するために制定した歌」であったように、学校生活全般の幅広い学生の心情や行動を表現しているものだった。学業に関する表現が全体の42%に描かれ、さらに運動やスポーツに関する表現も全体の11%に含まれていた。学生の行動を見ても、最も頻繁に使われているのは「学」ではあるが、「燃」、「進」などの学生の主体的に何かに取り組もうとする態度に関する表現も頻繁に使用されていた。「集」や「励」のように何人かが集団として互いに切磋琢磨しようとする、建学の理想や学生としての理想的な姿が歌われていた。行動の主体となるのは全て学生自身である。約半分の学校が学校名を含んでいたことから、その学校の生徒であるという自覚を強めるためのものであると考えられる。

つまり、校歌とは学生自身がこれからの学校生活の中で自分の理想的な姿を自らを盛り上げ、鼓舞するためのものであると考える。

応援歌は、「競技などで、味方・ひいきのチームや選手を応援するための歌」であったように学校生活全般というよりは、部活動やスポーツに焦点を当てたものだった。校歌は学業、運動に関する表現を両方ともに含む要素があったが応援歌は学業に関する表現が全体のわずか2%しかなく、一方で運動やスポーツに関する表現は全体の70%が含まれていて、かなり運動や競技面に傾斜していることが分かった。学生の行動でも頻繁に使われていたのは「燃」、「立」などの学生の心情に関わるものが多かった。これは、競技における学生のモチベーションに関わるもので、その矛先は競技以外の面には向いていないのではないだろうか。風物において、校歌では頻繁に使われなかった「炎」、「火」が応援歌で頻繁に使われていたのも、学生の燃え盛る心情を例えたものであろう。そして応援歌、という名前だが学校における応援歌は学生以外が学生を応援する視点で描かれるのでは無く、学生自身が自らを応援するという立場で描かれていた。

つまり、応援歌は校歌と並ぶ学校の歌ではありながら、かなり運動や競技面に様々な表現が使われていて、学生の運動、スポーツ面での士気を高めるためのものだと考えられる。

第一章第三節の予想される結論で述べたように、校歌は学校生活の幅広い色々なことが表現されていて、応援歌は運動、スポーツ、競技の面に偏っていることが分かった。しかし、主体となるのは学生自身で、その学校の学生である意識を高め、自らを鼓舞するという点では校歌、応援歌共に共通している部分であることが分かった。

第二節 今後の課題

今回、分析項目を立てて分析したがその中に学校ごとの校歌の成立年度や、学校の歴史を含めることが出来なかったので、歴史のある学校の校歌と、最近作られた学校の校歌とではどのような点が違うのかという校歌の表現の普遍性や変化についても分析をしていきたい。

また、今回は高等学校の校歌と応援歌について分析をしたが、小学校、中学校の校歌についても分析を進めたい。応援歌は小学校や中学校で存在する学校が少ないことが予想されるので、校歌については小学校、中学校、高等学校と校種によって表現の違いがあるのかという点にも目を向けていきたい。

終章 おわりに

私の通っていた中学校では、剣道部、野球部が毎朝学校の玄関の前に立ちあいさつ運動を行っていた。剣道部に所属していた私も、もちろん毎朝参加していた。朝礼の予鈴である校歌のメロディーが流れると、あいさつ運動をしていた私たちは大きな声で校歌を一斉に歌い出す。それが習慣になり、朝一番で校歌をみんなで歌う清々しさと、いつしか校歌が好きになっていた。今回校歌を分析対象として選んだのは、私のこの経験も関わっていたのかと分析対象の校歌を眺めながらふとそう思った。

これから先教員として新たな学校に勤め、自分の学校の校歌と呼べるものが増えていくと思うと非常に楽しみである。

分析を進めるにあたって助言を頂いた野浪先生、ゼミ生として一緒に頑張ってきた野浪ゼミのみんなには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。